

2022/4/1

(うと Q 世話し 快適さ (amenity)) 書庫版



戦争というのは尊い人命や人権を著しく損傷するという意味でもひどいのですが、実は昨今問題になっている地球温暖化の元の CO2 排出という意味でもひどいことがわかってきました。

ミサイルに爆弾、重火器に戦車等が CO2 をそこいら中にまき散らすからです。

例えば戦車は乗用車のガソリン満タンレベルではほんの数十メートルしか進まないのだそうです。何しろ鉄の塊ですから矢鱈目ったら重たいし、滑りのいいタイヤの代わりにわざと滑りを悪くして地面を驚掴みにして進むキャタピラーをはいてもいるからです。

ですから戦争というのはこの二つの面でばかげている訳です。

一方話は変わって上述の中の CO2 のお話を致しますと、以前自分が書いた記事の中で「産業革命以降人口が爆発的に増えた為に地球環境との利害相反関係が発生する様になった」

旨のお話を致しましたが、単に人間の数が増え、吐き出す息の CO2 量が増えた事で地球温暖化が進んだというイメージを持たれた方がいらっしゃいましたら、それは自分の説明不足によるものと思われまます。

もしそう捉えられたとすると、変な話

「だったら口数を減らせ」

という妙な方向に向かってしまうからです。

下手をすると

「口数減らしという意味では戦争は逆に人類存続の必然だ」

みたいな変な話に。

しかし人類の数が 75 億になっても、人の口から吐き出す CO2 量等というものはたかが知れているのです。

問題はその 75 億の人間が吐き出す CO2 量の総体ではなく、75 億の人間が必要以上の「快適さ (amenity)」(=お手軽簡単便利、全て自動でお任せ。以心伝心黙って座れば相手が察

してしてくれる)を求め「過ぎる」事で発生するCO2量にある様な。

例えば、最早快適さというより特に先進国で生活の奥深くに根差してしまっている車、冷暖房機器、照明都市など。最近では仮想通貨(暗号資産)のマイニング(掘り起こし)に膨大な電力を使う事が報告される様になりました。

ですが、ここまで生活に根付いてしまったものや、これから根付きそうなものを「だったら全部やめにしろ」

といっても非現実的でしょう。

ましてや戦争や感染症の長く憂鬱なトンネル明けにはそのリバウンドとしてそれ以前より上記の消費量はさらに、あるいは一時期爆発的に増える場面においては。

そんな中で

「快適さを求めるな」

等と言ったら袋叩きにあってしまいそうです。

「やっと解放されたのに、何妙な事を言っているんだ、このアホは」

と言われるのが関の山。

ならばどうすればいいのか？

明確で具体的な「これだ」という答えはまだわかりません。

ですが、一つだけ言えるのであれば

今までの「快適さの概念とエネルギー消費量の関係」を是非とも新たに考えてみる必要がある。

(その答えをきちんと出さないと戦争や地球からのしっぺ返しで人類は今度こそ正真正銘の「存亡の危機」を迎える羽目になりそうだ)

という事だけはひしひしと感じて居る処でございます。